



介護の魅力と価値を高めるのはあなたです

介護福祉経営士 ニュース KFK News

2021
3.31
No.81

CONTENTS

特集 介護報酬改定に見る科学的介護への道程

新データベース「LIFE」への対応は今後の介護経営における必須要件

2

●合格者の声

5

●第5回「介護福祉のみらい」
作文コンクール
入選作品掲載

6

●今月の「介護ビジョン」
●介護福祉経営士試験のご案内

●INFORMATION

7

●イベント掲示板
●WEB説明会のご案内

8

特集
介護報酬改定に見る科学的介護への道程
新データベース「LIFE」への対応は
今後の介護経営における必須要件



一般社団法人
日本介護福祉経営人材
教育協会

お問い合わせ先

一般社団法人日本介護福祉経営人材教育協会 事務局
☎ 03-3553-2896 <http://www.nkfk.jp>

制作：株式会社日本医療企画

編集・発行人：林 諄

〒104-0032 東京都中央区八丁堀三丁目20番5号
S-GATE八丁堀9階

新データベース「LIFE」への対応は 今後の介護経営における必須要件

令和3年度の介護報酬改定において、「科学的介護情報システム LIFE(ライフ)」の活用が多くの加算項目の要件として取り入れられることとなった。これは、介護関連の情報をデータベース化することで、情報の収集・分析を効率的に行うための布石ともいえる改定であり、最終的には「根拠(エビデンス)に基づく科学的介護の普及・実践」を見据えた取り組みだ。こうした流れに対して、加算内容をどう評価するか、事務手続き上の負担をどうとらえるか、今後LIFEからフィードバックされてくる情報をどう活かすかなど、経営上検討すべき項目は少なくない。本特集では「LIFE」の概要と今後の介護経営における位置づけについて考察する。

LIFE誕生の背景

従来、介護にかかわるデータベースとしては、2013年から運用され、介護給付費明細書(介護のレセプト)等、電子化情報を収集している介護保険総合データベース(介護DB)がある。この介護DBでは拾いきれない詳細な情報を収集するために、2017年度から運用されている「通所・訪問リハビリの質の評価データ収集等事業」のデータベース「VISIT」、2020年から運用が始まった「高齢者の状態、ケアの内容等」のデータベース「CHASE」が存在している。

「科学的介護情報システムLIFE(ライフ:Long-term

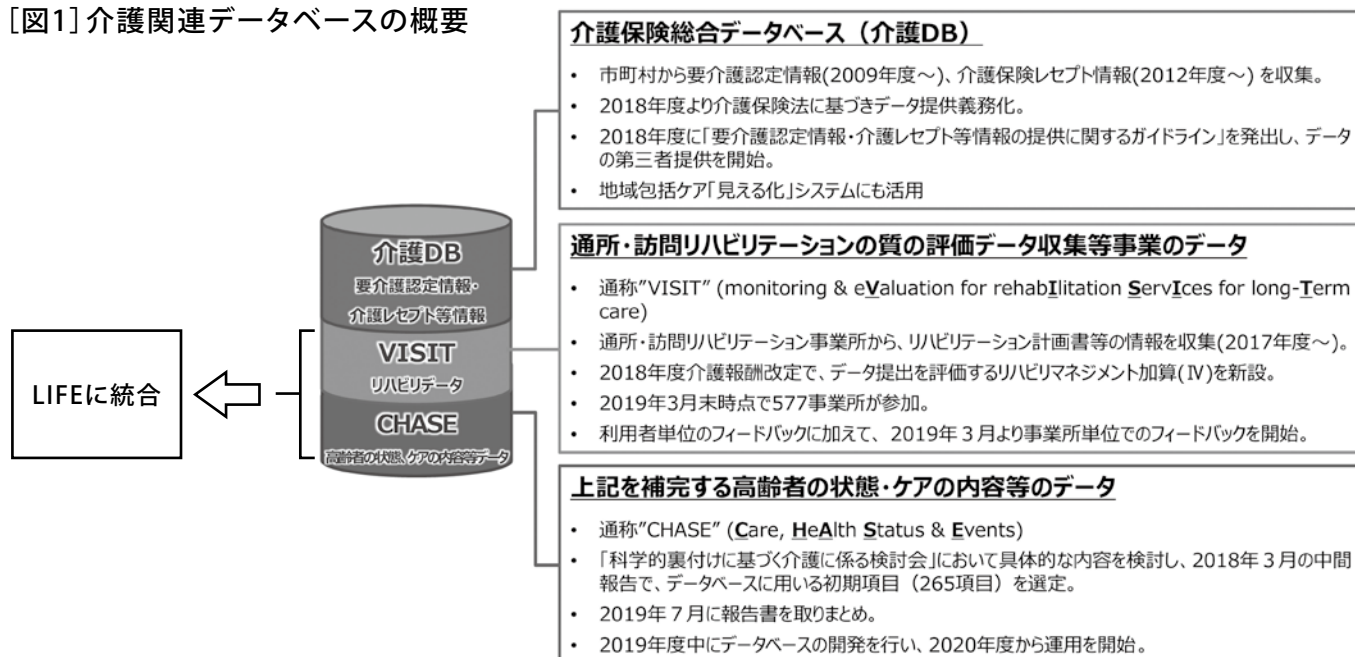
care Information system For Evidence)」はこのCHASEとVISITを統合、一体運用するにあたっての、新名称となる(図1)。

しかし、一方で現状では現場からのデータ提供が思うように進んでいない実情も明らかになってきている。

前回の報酬改定ではVISITに対し利用者ごとの評価データを提出することを要件としたリハビリマネジメント加算(IV)が盛り込まれたが、蓋を開けてみると、その算定状況は訪問・通所いずれも1%台(令和元年10月時点)と低調であることが昨年の介護給付費分科会の報告で明らかとなった。

多くの介護事業所にとって利用者情報の入力作業が

【図1】介護関連データベースの概要



出典:介護給付費分科会資料(2020,6,25)

業務上の負担となっていることがその理由として挙げられている。

はたしてLIFEの活用は進むのか

今回の介護報酬改定では多くのサービスの加算要件としてLIFEの活用等が設定されることとなった(図2)。それらの加算の中心となるのが新設された科学的介護推進体制加算。(I)は、利用者1人あたり、40単位/月(II)は60単位/月の報酬となるが、以下の2つの要件を満たす必要がある。

- ①入所者・利用者ごとの、ADL値、栄養状態、口腔機能、認知症の状況その他の入所者の心身の状況等に係る基本的な情報((II)では、加えて疾病の状況や服薬情報等の情報)を、厚生労働省に提出していること。
- ②必要に応じてサービス計画を見直すなど、サービスの提供に当たって、上記の情報その他サービス

を適切かつ有効に提供するために必要な情報を活用していること。

つまり、単純にデータを入力して終了というわけではなく、LIFEからフィードバックされたデータを活用しケアの質向上のためのPDCAサイクルを回していくことも求められている。

従来懸念されていたデータ提出の方法については、介護ソフトに入力したデータをLIFEに連携する機能等を備えることにより、LIFEへデータを再入力する負担が生じないような仕組みも検討されている。また入力項目についても、ある程度整理が行われ、ADL等の情報(既往歴、日常生活自立度等)、口腔・栄養の情報(食事形態などの栄養の摂取状況や口腔の健康状態等)、認知症の情報(認知症の既往歴等)といった基本項目に加え、目的に応じた入力項目として各種計画書やモニタリングの結果情報などの項目が設定されており、少しでもデータ提供へのハードルを下げるための方策が模索されていることがわかる。

[図2] LIFEの活用等が要件として含まれる加算一覧(施設・サービス別)

	科学的介護推進加算(I)	科学的介護推進加算(II)	個別機能訓練加算(II)	ADL維持等加算(I)	ADL維持等加算(II)	リハビリテーションマネジメント計画書情報加算	理学療法、作業療法及び言語聴覚療法に係る加算	褥瘡マネジメント加算(I)	褥瘡マネジメント加算(II)	褥瘡対策指導管理(II)	排せつ支援加算(I)	排せつ支援加算(II)	排せつ支援加算(III)	自立支援促進加算	かかりつけ医連携薬剤調整加算	薬剤管理指導	栄養マネジメント強化加算	口腔衛生管理加算(II)
介護老人福祉施設	○		○	○				○			○			○			○	○
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	○		○	○				○			○			○			○	○
介護老人保健施設	○					○		○			○			○			○	○
介護医療院	○						○			○	○			○			○	○

	科学的介護推進加算	個別機能訓練加算(II)	ADL維持等加算(I)	ADL維持等加算(II)	リハビリテーションマネジメント加算(A)口	リハビリテーションマネジメント加算(B)口	褥瘡マネジメント加算(I)	褥瘡マネジメント加算(II)	排せつ支援加算(I)	排せつ支援加算(II)	排せつ支援加算(III)	栄養アセスメント加算	口腔機能向上加算(II)
通所介護	○	○	○									○	○
地域密着型通所介護	○	○	○									○	○
認知症対応型通所介護(予防含む)	○	○			○(予防を除く)							○	○
特定施設入居者生活介護(予防含む)	○	○			○(予防を除く)								
地域密着型特定施設入居者生活介護	○	○			○								
認知症対応型共同生活介護(予防を含む)	○												
小規模多機能型居宅介護(予防含む)	○												
看護小規模多機能型居宅介護	○						○		○			○	○
通所リハビリテーション(予防含む)	○					○(予防を除く)						○	○
訪問リハビリテーション						○(予防を除く)							

出典：厚生労働省通知(2021,02,19)

しかし、その一方で介護現場側としては、不足しがちなマンパワーのリソースを割くことができるのかという点や、適切にデータを取り扱える人員を育てる時間的余裕があるのか、介護ソフトをはじめとする運用環境確保のための費用はねん出できるのか、フィードバックされてきたデータをPDCAサイクルに取り入れるための体制や組織の土壌が整備できているのかといった点など、課題となり得るポイントも少なくない。

だが、介護業界全体が科学的介護の基盤構築のために動き出した今、こうした課題解決について向き合うべき時が来ていると考えるべきではないだろうか。

現在、介護福祉経営士の資格保持者の中でも、実際にICT関連の業界等に身を置き、こうした実情に詳しい介護福祉経営士は増えつつある。

科学的介護推進の中核としてぜひ活躍をしていていただきたい。

Message

LIFEを報酬の要件としてだけでなく、 今後の介護のための有益なツールとして 認識することが重要

じんない しゅうのすけ
神内 秀之介 | ふくしのよろずや神内商店合同会社代表
介護福祉経営士1級



介護事業所のコンサルティングを行っているため、介護関連のデータベースとは色々な形でかかわってきました。

コンサル上の位置づけとしてはやはり新しい加算要件の対象であることは大きな意味を持ちますし、実際現場でも算定できる事業所は重要性を理解しているところが多い印象です。しかし一方で加算対象ではない事業所の中には「うちは関係ない」「新しいことをしている余裕がない」という反応をしている所も多く、この点については危うさを感じています。

それは、ただ単に報酬獲得のためにやるという、今までの介護報酬改定時のスタンスのままでは、LIFEに対して文脈を読み違えた理解をしかねないからです。

医療分野では診断さえ出れば、どのような薬を使い、どのような治療をするかについて明確なパスが用意されているのに対して、介護業界は事業所や法人、地域ごとに独自性が出やすく、課題に対するアプローチの仕方も千差万別です。その点、今回のLIFEはサービス内容の平準化などに大きく寄与できる可能性を秘めています。

自分たちの行っているケアを見える化し、アウトプット・アウトカムを把握していくことが今後のサービスの評価の主軸になっていくことを理解している事業所であれば、LIFEの有用性についても気づいているはずですが。

特に今回はデータベースからフィードバックされた情報を活用しPDCAサイクルを運用し、科学的介護を目指すことが求められています。

もともとベテラン職員の中にはテキストベースの記録資料や職員の経験などの形で科学的介護に近いものを実践して

いるケースもあったのですが、昨今の簡易的な教育課程を修了しただけで現場に出てきた職員には、目の前の事象を分析しながらケアを実践していくことは難しいと言わざるを得ません。

そういった面では、LIFEによって全体値が明らかになれば、その中から好事例や適正解を導きだしやすくなるのが期待できます。フィードバックされた情報を帰納法と演繹法を踏まえた上で、エビデンスのある支援に結び付けられることは大きなメリットではないでしょうか。

私はこのLIFEでの取り組みについて、デジタルトランスフォーメーション(Digital Transformation:DX)ならぬケアトランスフォーメーション(Care Transformation:CX)につながるものだと感じています。

すなわち、LIFEを手段やツールとして使いこなすことができれば、ケアの効率化や、高性能化、均質化といった改革につながっていくと考えています。

フィードバックされたデータを適切に取り扱うためにITリテラシーの高い職員を育成することも、新しいケアのあり方と言えるでしょう。

社会保障費の増加状況や、人口減少などの状況の中で、いかに少ないリソースでケアの質を保持し、向上させていくかを考えたとき、生産性の向上や効率化は介護業界全体で取り組んでいくべき課題です。

今後はLIFEやICT化技術などのツールでできること、人しかできないことを仕分け・棚卸しながら、有効的なツールの活用方法を模索していくことが重要になると考えます。



資格を活用して介護の魅力を発信していきたい

河野 寛之 ●かわの・ひろゆき

株式会社ローカルトレイン 代表取締役／大分県介護福祉士会事務局長／
学校法人平松学園大分介護福祉士専門学校 教育編成委員・講師
介護福祉経営士2級／介護福祉士／介護支援専門員

私が介護にかかわることになったのは、体調を崩し、手術・入院した際に現場でのケアを身をもって体験した結果、ケアというものに興味を持ったことがきっかけでした。その後、介護福祉士の資格取得を目指して勉強を始めました。

しかし、介護について学び、ボランティアなどをとおして介護現場の状況を知っていく中で、介護業界のシステムに多くの改善の余地があることに気づきました。さらに、自分の追求する介護を目指すには、どうしても一般的な経営基準と比べて人件費のウエイトが大きくなってしまっても明らかとなり、それならばいっそ自分なりの介護を実現できる環境を作ってしまうべきと考え、株式会社ローカルトレインを立ち上げました。

現在は、住宅型有料老人ホーム、デイサービス、ヘルパーステーション等の運営を主幹事業として展開しながら、介護事業所向けのコンサルタントなども行っています。

介護福祉経営士については、医療経営士の情報を集めている際に資格の存在を知り、興味を持ちました。

実際に経営に携わっている立場でもあり、業務の中でもコンサルタントとして立ち回る場面があることなどから取得を決めましたが、介護福祉士の専門学校の講師としての立場から、学生に資格を紹介する前にまずは自分で取得してみようと考えたことも理由の一つです。

試験の内容はすでに実務の中で触れているものが多く、授業でも教えている内容が主だったため、スムーズに学習

を進めることができたと思います。また、これまで介護福祉士をはじめとする複数の資格を取得してきた経験もあり、その点も学習の大きな助けとなりました。

特に介護技術の進歩や介護制度の関連法規などの部分については改めて体系的に学び直すことで、より知識を深められたと感じています。

介護業界全般に言えることだと思いますが、介護現場には数字に弱いスタッフが多いと感じています。数字を扱う経営部門と実際のケアを担う現場とにくっきりと分かれている場合も多いため、数字だけの話では地に足がついた議論にならず、かといって現場だけ見ても業務がまわらないという現状があります。私は経営部門と現場の両軸のバランスが大事だと思っています。

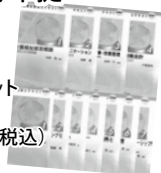
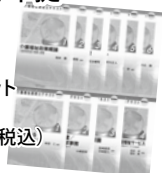
今、介護現場で求められているのは現場を大事にしつつ、自分のビジョンを実現するために数字を見ていくことができるリーダー層です。介護福祉経営士はそういった内容をロジカルに考えていくために役立つ資格だと思いますし、経営をしている立場から見ても、現場と数字の両方を見れる職員が増えることは歓迎すべきことです。

加えて、医療と違い、介護は外部から見ても何をやっているのかわかりにくい業界であるため、これから介護業界を盛り上げていくためには、自分たちで仕事の魅力を伝えていく必要があります。今後は介護福祉経営士資格を活用して施設のブランディングなどを行いながら、介護の魅力を発信につなげていきたいと思っています。

介護福祉経営士テキストのご案内

介護福祉経営士テキストシリーズは、「介護福祉経営士」の試験科目に対応しています。

介護福祉経営士テキストのご案内

介護福祉経営士
1級試験 準拠実践編
全11巻セット
特別価格：
26,190円(税込)介護福祉経営士
2級試験 準拠基礎編
全10巻セット
特別価格：
24,100円(税込)

いまなら

「介護福祉経営士2級資格認定試験対策
— 合格サポートブック —」がもらえる!!

「合格サポートブック」とは

- 「介護福祉経営士テキスト」基礎編(10巻)各巻の重要ポイントの解説を掲載
 - 予想問題を掲載
 - 第1回「介護福祉経営士2級」資格認定試験で実際に出題された問題を一部掲載。
- ※解説は(株)日本医療企画によるものです。

テキストのお申し込み、お問い合わせは株式会社日本医療企画ホームページへ
▶<http://www.jmp.co.jp/>

※株式会社日本医療企画へ直接お申し込みされた場合の価格となります。



vol.3

第5回「介護福祉のみらい」作文コンクール 入選作品掲載

一般社団法人日本介護福祉経営人材教育協会は、将来を担う中学生、高校生が、介護や福祉の大切さを知り、未来について考え発表する場として、2020年に第5回「介護福祉のみらい」作文コンクールを実施。全国から寄せられた551編から黒澤貞夫審査委員長（一般社団法人介護福祉指導教育推進機構代表理事）のもと厳正な審査が行われた。以下に入選作品を紹介する。

優秀賞

「経験を活かして」

たき みらい
瀧 未来さん

（兵庫県立日高高等学校 福祉科 2年）

中学三年生で受験生となり進路を考えていくことになりました。進路なんて全く考えたことなんてなく将来の夢なんて何も考えていなくて、自分が何になりたいかなんて何ひとつ分かりませんでした。そこで小さな頃から経験してきたことをふと思い出し、将来は福祉に関わることができる仕事に就きたいと思いました。唐突ではありましたが、明確に進路を決定しました。そして福祉系の高校を志望し、入学しました。

私の住んでいる地域はとても田舎でほぼおじいちゃんおばあちゃんしか出会わないような場所でした。小学生の頃、ひどく腰を丸めたおばあちゃんから「大人になった時は、そんな時は頼むで」という言葉を小さかった私に言いました。大人同士で小さな子ども達に期待の目を当てることより子ども達本人に直接伝えることこそ意味があったのかなと思います。小さかった私とその言葉を何処まで理解できていたのかは分かりませんが、自分自身の介護をお願いする意味と地域や社会を後々任せるという意味が込められていたのかなと思います。その言葉は今振り返るととても深い言葉だったのかなと思います。地域の人達と集まる機会があった時も、おばあちゃん達が、「私たちの地域には元気な若い者がおる。」と、私達のことを嬉しそうに自慢してくれて、大きな期待を受け取った感覚がありました。小さな頃から「帰りました」と言うとき必ずといって良いほど「おかえ

り」と挨拶を返してくれて、まるで地域が家庭のようでした。そんなあたたかな地域を引き継いで来たおじいちゃんおばあちゃん達がいる地域に住んでいること、何だかすごく誇らしく嬉しい気分です。あたたかな地域に育てられていたことをよくよく実感することができました。出会った人と、なんの壁もなく世間話や、特に話すこともなく一緒にいられることは本当に幸せな地域の象徴だと思いました。

高齢者への態度の悪さや問題など、今でもたくさん上がっています。ですが、それは初めの受容ができておらず、なおかつ、世代を超えた交流の素晴らしさをまだ知らないだけなんじゃないかと思います。あまり知らない状態で先入観と思い込みだけでかかって悪い暗い印象を持ってしまっているだけなんだからと思います。浅はかな知識で物事を見るだけなんじゃないかなと思いました。

今まで、福祉というのはすごく難しいものだと思っていましたが、それもまた知識が浅はかなだけでした。地域の一員として挨拶をし続けてみたり、少し声を掛けてみたりすることが、意外にも福祉の心への第一歩なんだということを知りました。

福祉に力を入れることの楽しさ、知ることの大切さ、重要さをまず知り、自分の知識として取り入れることができるよう、学びと経験は大切にしたいと思いました。



瀧 未来さん

審査委員長のコメント

地域福祉を考えるにあたり、地域の人々の交流が定着しているかどうかは非常に大切です。

私はこの作品で取り上げられているテーマこそ地域福祉の原点であると思います。地域のつながりというのはこういったところから始めていかなければいけないと感じさせる内容でした。まっすぐな視点で書かれていて大変好ましいと思います。

地域のニーズをすくい上げ
地域から超高齢社会を支えていくための
視点を具体的事例とともに掲載

介護ビジョン

今月の

第1特集

改定の意図を把握しよう 2021年度介護報酬改定の ポイントと対応

プラス改定という名の割には、実質はマイナス改定だという介護事業者の嘆きが聞かれる、2021年度介護報酬改定。とはいえ、嘆いてばかりいては意味がない。年度初めの今だからこそ、改定のポイントを確認し、自事業者が何をなすべきかを考えてもらいたい。

解説 2024年を見据えた改定対応次第で二極化が進む

小濱道博氏(一般社団法人日本介護経営研究協(NKK) 専務理事、
一般社団法人介護経営研究会(C-SR) 専務理事、
介護事業経営研究会(C-MAS) 最高顧問)

Case1

完全調理済み食材の活用が栄養ケア・マネジメントの強い味方に!
フジ産業株式会社

Case2

「発話」での記録を可能にしさらなる業務効率化を実現
株式会社ケアコネクトジャパン/株式会社エクサウィザーズ

2021年4月号

(2021年
3月20日発売)詳しくは

- 毎月20日発行
- 定価: 1,296円(税込)
- 定期購読料: 15,552円(税込)
- ※ 会員価格は12,444円(税込)

第2特集

データ取得だけにこだわるな LIFE活用の真の意味を捉えよ

特別企画

第3回介護ビジョン版 介護給付費分科会 最終レポート

「介護福祉経営士」 資格認定試験のご案内

全国200会場で、受りたい日時に受験が可能 その場で合否が判定されます!

「介護福祉経営士」資格認定試験は、CBT方式で実施しています。

試験会場は全国約200会場から選ぶことができ、自分の予定に合った日程、時間に受験することができます。これにより、より多くの方々に受験機会が広がり、介護福祉業界のマネジメント人材として活躍していただけるよう、受験しやすく役に立つ教育システムとして進化しています。

受験方法や受験申込については、本会ホームページ(<http://www.nkfk.jp/>)にてご確認ください。

CBT方式とは……

CBTとはComputer Based Testingの略称で、問題用紙やマークシートなどの紙を使わず、パソコンで受験する方式のテストです。特定の受験日に一斉実施する紙ベースの試験とは異なり、全国の会場にて随時(毎日*)受験が可能となります。受験者は、会場と日程をWeb上で予約し、当日は会場のパソコンで受験します。

※年末年始を除く。試験会場によって異なります。【ご注意】新型コロナウイルス感染症の影響により、使用できる会場に制限が生じる場合があります。

KFK INFORMATION

新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大に伴う試験の実施状況について

「介護福祉経営士」資格認定試験は試験サービスの提供先であるJ-Testingと連携し、会場において下記の感染防止措置を取ったうえで実施しております。

- ・会場の受付担当者、試験監督者のマスク着用徹底
- ・受験に使用する机、PC等の清掃・除菌の徹底
- ・定期的な換気の実施

また、受験にあたってはマスクの着用が必須となります。

なお、体調不良の場合や職場やご家族で感染またはその疑いが出た場合など、新型コロナウイルス(COVID-19)に関する影響で受験ができない方は、試験日程変更期間(試験日の3営業日前まで)を過ぎた場合でも、可能な限り早い段階でJ-Testingヘルプデスクまでご連絡ください。

J-Testing お問い合わせページ▶ <http://j-testing.jp/cbt/contact.html>

株式会社日本医療企画

介護経営戦略入門講座
2021年介護報酬改定から読み解く、
未来介護の経営戦略の基本

【第1部】2021年介護報酬改定の大事なことだけ教えます

【第2部】2040年を見据えた未来介護の経営戦略とは

■日時：2021年4月10日(土) 14:00～17:00

■講師：

【第1部】熊田圭佑氏

(有限責任監査法人トーマツ アドバイザリー事業本部ヘルスケア
介護福祉経営士2級)

【第2部】古株靖久氏

(有限責任監査法人トーマツ アドバイザリー事業本部ヘルスケア
介護福祉経営士2級)

■開催方法：オンライン

■参加費：無料

■定員：100名

お問い合わせ 株式会社日本医療企画 関西支社
TEL:06-7660-1761

日本介護福祉経営人材教育協会
中国支部・九州支部

ひまわり先生の交流分析学を用いた
医療者のためのコミュニケーション実践講座

「交流分析」の考え方を学び、自己理解の促進とコミュニケーションの仕組みについて心理的な視点から理解を深め、職場でのコミュニケーションの見直し方について解説。

■日時：2021年4月17日(土) 13:00～16:00

■講師：米倉けいこ氏

(株式会社メンタルサポート研究所/臨床心理士、公認心理師/
山の手クリニックカウンセラー/九州女子大学非常勤講師/
NPO法人カウンセリングジャパン理事)

■開催方法：オンライン (Zoomによるライブ配信)

■参加費：(1)協会会員：4,000円(税込) (2)一般：5,000円(税込)

■参加要件：①顔画像ON ②グループワークあり

お問い合わせ 日本介護福祉経営人材教育協会 中国支部・九州支部
(株式会社日本医療企画 九州支社内)
TEL:092-418-2828

株式会社日本医療企画

【4月期】
医療経営士・介護福祉経営士・栄養経営士 関西支部合同研究会
介護報酬改定カフェ in 大阪
皆でゆる〜く語り合おう!!
〜2021年度介護報酬改定から見る介護保険制度の今後〜

コロナ禍の影響を大きく受けた今回の介護報酬改定は、人材確保・処遇改善や物価動向といった“経営”を取り巻く状況等への考慮から、プラス0.70%となった。しかし、基本報酬の引き上げや医療依存度の高い重度者へのサービス拡大の一方で、生活支援的なサービスや長期利用サービス費の引き下げが行われている。また、科学的介護情報システム「LIFE」の本格的な運用も始まる。講師の石井富美氏による今回の報酬改定のポイント解説をもとに、これからの介護保険制度の在り方について考える。

■日時：2021年4月24日(土) 14:00～17:00

■講師：石井富美氏(多摩大学医療・介護ソリューション研究所 副所長)

■開催方法：会場&オンラインによるハイブリット開催

■参加費：(1)協会会員：3,000円(税込) (2)一般：4,000円(税込)

■定員：会場：30名/オンライン：100名

お問い合わせ 株式会社日本医療企画 関西支社
TEL:06-7660-1761

日本ヘルスケア経営学院

2021年度 介護報酬改定 重要ポイント徹底解説
【WEBセミナー】

社会保障審議会介護給付費分科会委員でもある日本医師会常任理事の江澤和彦氏が改定の背景や目的を踏まえつつ各サービスごとの基準と報酬を解説。2021年度介護報酬改定の全容がわかる140分!

■日時：2021年1月29日(金)～6月30日(水) (視聴期間20日間)

■講義時間：全140分(全6動画) ※オンライン視聴

■講師：江澤和彦氏

(公益社団法人日本医師会常任理事、
社会保障審議会介護給付費分科会委員)

■参加費：8,000円(税別)

■お申込み：

https://hcmi-s.net/weblesson-hcm/webseminner_2021_kaigo/

お問い合わせ 日本ヘルスケア経営学院 事務局
(株式会社日本医療企画内)
TEL:03-3553-2862



介護福祉経営士 WEB説明会のご案内

一般社団法人 日本介護福祉経営人材教育協会では、WEB上での説明会を行っています。

これまで、当協会では介護福祉経営士の受験を検討する法人などを直接訪問し「出前説明会」を開催してきましたが、今後はWEBも活用しながら介護福祉経営士の普及に努めてまいります。

「介護福祉経営士」について、資格取得のメリットや勉強方法など様々な情報を距離・場所の制約なく入手していただける機会となりますので、ぜひご活用ください。

お申し込みは当協会ホームページ(<http://www.nkfk.jp/demae.html>)より承っております。

